

# 今夜、なにがみえるかな 創刊号

2017年6月中旬  
21時頃の星空



6月の星空

国立天文台 天文情報センター

北斗七星が、夜空高くにのぼってきます。その星の並びをたどると少し赤みがあったうしかい座のアークトゥルスそしておとめ座のスピカを見つけることができます。

スピカのそばには地球の兄弟星「木星」がひとときわ明るく輝いています。夜も遅くなると東の空に「土星」ものぼってきます。

## テーマ番組 「惑星探査機ボイジャー」の紹介

今年は惑星探査機ボイジャーが打ち上げられて40年になります。その宇宙探査機の成果は今も色あせることはありません。人類が最も遠くまで送った惑星探査機ボイジャーの活躍を紹介します。

水の館プラネタリウム  
リニューアルオープン記念コンサート「竜馬四重奏」

竜馬四重奏は、我孫子市魅力発信PVに出演&楽曲提供していただいた竜馬さんが中心となり結成された伝統楽器ユニットです。星空の下での生演奏をお楽しみ下さい。6月3日(土)①15時～、②16時～(各40分程度)  
定員:各回先着50名 費用:1人100円 チケットはそれぞれ1時間前から3F手賀沼課事務所で発売します。

## プラネタリウムのご案内

定期上映(土・日・祝日)

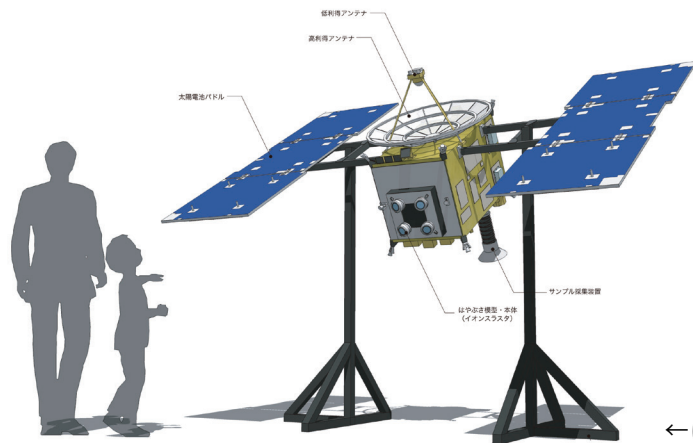
- ・テーマ番組 10・13・15時(各20分)
- ・今夜の星空 11・14・16時(各20分)

※平日は貸し切り(10名以上の団体・要予約)上映のみ行います。

詳しくは手賀沼課までお問合せ下さい。

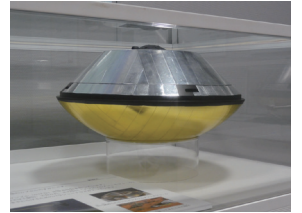
電話:04-7185-1484

人類は宇宙に何を見て、何を伝えようとしているのか？



小惑星探査機はやぶさの紹介

多くの人を感動させた「小惑星探査機はやぶさ」その飛行の様子を多くのパネルで紹介しします。また1/2スケールで再現したはやぶさ本体の模型や実寸で再現した帰還カプセルも展示します。はるか60億kmを旅したはやぶさの姿を見て改めてその偉業をふりかえります。

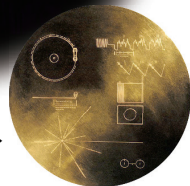


帰還カプセル→

←はやぶさ 1/2 模型

番組連動企画「惑星探査機ボイジャー」

1977年に打ち上げられたボイジャーは今年打ち上げ40周年をむかえます。ボイジャーは木星や土星などの鮮明な映像を地球に届けました。そして今も太陽系を離れながら飛行を続けています。その探査の成果をNASAの公式報告書の展示など行いながら紹介します。そしてボイジャーの最後のミッション。搭載されたゴールデンレコードに込められた未知の知的生命体に向けて語られた、人類からのメッセージを紹介します。



ゴールデンレコードのレプリカ→

我孫子市手賀沼親水広場とは？

手賀沼親水広場は、水環境の保全啓発を主な目的として、環境保全型農業や地産地消等を推進する機能を持たせた複合施設です。水の館には、農産物直売所やオープンデッキを備えたレストランの他、手賀沼の生き物や歴史について学べる展示コーナー、手賀沼を一望できる展望室、プラネタリウム、研修室、シャワー室等を備えています。広場には、ミニ手賀沼やじゃぶじゃぶ池、水と触れ合える「水の広場」があり、春には桜のライトアップも楽しめます。

開館時間/9:00~17:00(直売所・レストラン除く) 休館日/年末年始・毎月第4水曜休館(休日に当たるときは前の週の水曜日)



「今夜、なにがみえるかな」発刊にあたって

これから「水の館」プラネタリウムの番組や月々の星の話、市内のイベント情報を毎月お届けします。第1号は6月に見える星と新しくなった「水の館」の紹介です。

夜空を見上げると、月や明るい星、暗い星などたくさんの星を見ることができます。昔の人は、月や星を日々見上げ神話を作り、今後に占い、暦を作ってきました。星々が非常に遠くにあることや運行の仕組みが解ってくると、多くの星々が太陽と同じものだと理解されるようになりました。現在では今、「水の館」に展示している隕石から素粒子まで、宇宙から地球にさまざまなものが降り注いでいることが解ってきており、気候に影響を与えているという説もあります。

プラネタリウムを見て、宇宙に浮かぶ地球に思いを馳せ、その表層で生活している私たちの環境を考えるきっかけにいただければ幸いです。

アクセス

手賀沼ふれあいライン沿い・県道8号線  
「我孫子市若松交差点」から湖北方面へ約350m  
※駐車場180台(無料)/大型バス駐車場4台(要予約)

交通

JR我孫子駅(南口)又は天王台駅(南口)から阪東バス  
・市役所経由のバスで「市役所」下車徒歩5分  
・鳥の博物館前経由「鳥の博物館前」下車徒歩1分(土・日・休日のみ)

